



今月の野菜紹介

にんじん

◆意外と狭い播種適期

にんじんの発芽適温は、15〜25℃と言われており、30℃以上では極端に発芽が悪くなります。そのため、早まきは厳禁です。一方で、遅まきをする、生育後半の温度が低すぎて、肥大不良や根の着色不良になりやすくなります。

そのため、播種のタイミングは、ある程度暑さが一息ついた8月末から9月に入った頃に播種するのがオススメです。

また、にんじんはそもそも発芽まで非常に日数を要する作物で、条件が良くても10日〜2週間はかかります。この間、適湿状態を保っておく必要があります。そのため、播種した畝の上に寒冷紗等を被せ、温度上昇の抑制と適湿を保つと良



いでしょつ。

◆生育に応じて間引きを

にんじんは、1粒で播種するよりも、1か所にある程度粒数があった方が、株ごとで生育を競い合つて、よりよい生育をしていきます。一方で、ある程度生育に応じた間引きをしないと、十分な根に育ちません。

そのため、1回目の間引きとして本葉2〜3枚頃に株間3〜5cm程度にし、2回目の間引きとして本葉6〜7枚頃に株間8〜10cm程度になるようにします。いずれも、草勢の強すぎるものや弱すぎるものを対象に行います。



◆生育初期は十分な水を

そもそも根菜類は、生育初期から中期にかけて、根が深く伸びて長さが決定します。さらに、この時期に肥料不足や土壌が乾燥すると根部の細胞が老化し、その後、順調に肥大しなくなります。その

ため、播種後約2か月間は、降雨が無ければ1週間おきくらいに灌水をして土壌水分を確保することが大切です。

一方で、生育の後半は、あまり土壌水分が多すぎると、根色が淡かったり裂根が多発したり、肌が粗くなることがあるので、やや乾燥気味の管理にした方が良いでしょう。

知っておきたい病害虫

キアゲハ

キアゲハはその名の通り、「アゲハチョウ」として有名なチョウ目（鱗翅目）の害虫です。キアゲハは幅広い害虫で発生するということよりも、ニンジンやパセリ、ミツバ等を食

害することが良く知られています。キアゲハの幼虫といえば、緑色の地に黒色の横縞と橙



老齢幼虫

赤色の斑点が特徴的なスタイルですが、この姿は老齢幼虫の姿です。

実は、若齢から中齢にかけての幼虫の場合、体全体が黒褐色で白斑がある別の姿をしています。



若齢幼虫

他のヨトウムシのような鱗翅目と同様に葉を食害しますが、小さなうちの被害は少なく、大きくなると葉を丸ボウスにするほど食害することがあります。

【主な対策】

- 定期的にほ場を巡回して、早期防除に努める。また、「キアゲハ」として登録のある薬剤は少ないが、同じ鱗翅目害虫の「ヨトウムシ」等の登録薬剤でも効果が期待できる。
- ・コテツフロアブル
- ・ランネット45DF
- ・アグロスリン乳剤 など

※適用内容は品目によって異なりますので確認の上、使用してください。